

委員会開催概要

回数		検討・確認内容	今後の課題
第1回		<ul style="list-style-type: none"> ・本委員会の最終目標は、土壌保全新手法開発、流域総合保全構想提案、同構想策定のガイドライン提案とし、総合調査の一環として2ヵ年で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シカの生息密度と長期的動向の把握 ・各事業で実施した調査について、どんなものがあるかというリストの把握 ・人工林の施業履歴の把握
H17.8.1	趣旨説明	<ul style="list-style-type: none"> ・流域総合保全構想は、塩水川流域をモデルとし具体的な検討を行う。 ・試験施工はあくまでもパイロット的に実施する。 	
神奈川県社会福祉会館	土壌保全新手法開発の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・本委員会で主に検討する土壌浸食は、崩壊地における侵食ではなく、ブナ等上層木のある場所での林床植生の衰退による表面土壌浸食とする。従来の治山技術では主流ではなかった領域。 ・石川委員より手法の提案(保護柵改良手法、リター活用手法、筋工等勾配緩和手法の改良等) ・植生回復がベストだが、即効性としては毎年供給されるリターを使わない手はない。急傾斜地は柵等の囲い、緩傾斜地はリターを捕捉しとどめる方法が有効ではないか。 ・施工地の対象区として無施工地を必ず設ける。 ・シカ管理が鍵だが、現状では簡単には密度を落とせないため、シカがいる条件のなかでより有効で手間がかからずまた必要があれば集中投資するような戦略はなにか議論する。 	
	塩水川流域保全構想検討の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌浸食に影響するシカの対策については、生息環境管理を事業として明確に位置づけ実施するべき。 ・流域保全構想は、様々な事業が実施されていてデータが多いため、塩水川流域をモデルに検討する。場所場所での課題の優先度、整合性を議論する必要がある。 	